「品質保証に係る顧問会」(第6回)議事録(要旨)

1. 日 時 : 平成18年3月6日(月) 13:00 ~ 15:15

2. 場 所 : 日本原燃(株) 東京事務所(物産ビル別館6階) 第一会議室

3. 出席者

(1) 顧 問

(主 査) : 高橋 八戸工業大学長

(委 員) : 今井 住友化学(株) レスポンスブル ケア室 品質保証担当部長

新堀 東北大学助教授

宮村 中央大学教授

(五十音順)

(2) 日本原燃

(同席者) : 兒島社長, 平田副社長, 峰松副社長,
大和濃縮事業部長, 野口埋設事業部長,
磯部品質保証室担任・安全技術室担任, 松尾経営企画室担任,
米田燃料製造部担任,
村上品質保証室長, 尾川品質保証室副室長,
新沢品質保証室品質保証部長
中島再処理事業部品質管理部課長

(事務局) : 中村品質保証室副部長

4. 議事要旨

(1) 開会挨拶

日本原燃より, 開会挨拶を行った。

(2) 社長挨拶

兒島社長より, 顧問会の開催にあたり, 日本原燃の近況を含め挨拶を行った。

(3) 第4回及び第5回顧問会の議事録確認他

日本原燃より, 第4回及び第5回顧問会での評価・アドバイスに対する対応方針の概要について説明を行った。

(4) 品質保証活動の実績

日本原燃より, 日本原燃が実施した平成17年度の主な品質保証活動の実績について説明を行った。

(5) アクティブ試験前確認結果について

日本原燃より, 再処理工場のアクティブ試験前確認結果の全体状況について説明を行った。

(6)安全文化の醸成状況の自己評価活動

日本原燃より、安全文化の醸成状況の自己評価(案)について説明を行った。

(7)不適合の原因別統計処理について

日本原燃より、不適合管理の改善として類似事象再発の防止に向けての原因別統計処理の考え方について説明を行った。

(8)次年度の予定

次年度も引き続き本顧問会を継続することを確認した。

5. 主なアドバイス他

(1)アクティブ試験前確認結果について

(最近発生したようなトラブルを無くすために、どうしてもう一步踏み込んだチェックができるのか、マインドの醸成ができるのかという日本原燃の問に対し)

設備(現場)を愛する人間心理の醸成が必要である。現場パトロール等も形式的に実施するのではなく、設備を愛する生きた目で見ることが重要である。今までのトラブルの経験を振り返ることにより、生きた目を養うことも必要ではないか。

トラブルは設計変更した部分に多く発生する。設計変更部を中心にチェックすることは効果的である。また、「どうしても事故が起こせるか」という目でチェックすることも効果的である。

(2)安全文化の醸成状況の自己評価活動

一般的にパフォーマンス指標(PI)とは、原子力発電所の設備利用率、計画外停止率等の評価に用いる指標をいう。報告のあった日本原燃の評価指標は安全文化の醸成状況を評価するためのものであり、この評価項目が全てであると誤解されないよう、PIという表現は使用しない方がよい。

評価結果の数値化だけでなく、普段の努力の度合いを把握できるように工夫するとよい。

指標の評価においては、件数の比較だけでなく、どこを改善すれば良いか分析できるようなパラメータ(組織、教育等)を設定し、纏めることが重要である。

(3)不適合の原因別統計処理について

一般的に作業の各プロセスでどういう不具合事象が起きているかをマトリクス表に整理したQAマトリクスを整備することが有効である。また、その事象が4M条件(man, machine, material, method)とどのように結び付くのか確認することが有効である。

以上